

令和 5 年度

# 近畿大学附属小学校 学校評価 総括



## 近畿大学附属小学校

KINDAI UNIVERSITY ELEMENTARY SCHOOL

# 2023年度 教育方針など

## 私立幼稚園・小学校の新しい形を構築する 経営状況の健全化

### 1. 時代のニーズに合った小学校・幼稚園への脱皮

- ・非認知能力を高める取り組みの研究および実践  
世界の実践例を学び、日々の活動に活かす
- ・進化し、社会に拡大する人工知能（AI）の時代に対応できる人の育成  
AIとの対話力、豊かな発想、判断力など
- ・新しい実践を行い、長期的な追跡調査が可能なエビデンスを蓄積していく

### 2. 私立小学校、私立幼稚園としての付加価値を高める

#### 【教員】

- ・私立学校の教員に相応しい言葉遣い、身だしなみ、態度、品位などを常に意識する
- ・質の高い授業、保育を提供する
- ・不登校、不登園予防やインクルーシブ教育への造詣を深める
- ・幼稚園、小学校で教育理念を共有する

#### 【教育内容】

- ・ICTを利活用した新しい授業の構築
- ・4技能が身につく英語教育
- ・楽しみで待ち遠しく感じる行事
- ・あいさつ、返事、履き物を揃えるなどの基本的な生活習慣を身につける
- ・思いやりのある子、一隅を照らす人を育てる

### 3. 学力の保障

#### 【授業の主眼】

- ・中学校の授業を十分理解できる基礎学力、語彙力を確実に養う
- ・児童が主体的に学び、達成感を得ることができる

#### 【授業の改善】

- ・知的好奇心を刺激する授業
- ・理解力に応じた個別対応の課題など

### 4. 経営状況の改善

- ・募集定員を確保し、安定した経営に資する
- ・増加する共働き家庭にも支持される小学校、幼稚園への改革  
学童保育、預かり保育の拡充を図る  
ケータリングの回数を増やすことを検討する
- ・募集について、在校生、卒業生の保護者、同窓会などにも協力を求める。
- ・ペーパーレス化、適切な空調の運用など高いコスト意識を持つ

## 5. 学校評価について

### (1) 学校評価の種類

自己評価：教職員による評価ならびに、児童アンケート・保護者アンケートによる結果（10月・2月実施）

学校関係者評価：附属中・高等学校校長、附属幼稚園教頭、近友会会長、保教会会長、校長、教頭、教務部長により構成する評価委員会が、自己評価の結果について評価するとともに、改善策等についての提言・勧告を行う。（通常3月に実施）

### (2) 評価基準

S：目標を上回って達成した（5.0～4.5）

A：目標どおり達成した（4.4～3.8）

B：取り組んだが達成できなかった（3.7～3.1）

C：ほとんど取り組むことができず、目標も達成できなかった（3.0以下）

### (3) 自己評価について

#### ① 教職員による評価

1. 学校経営の重点		
(1) 目 標		
○ 開かれた、信頼される学校づくりを進めるため、学校として、あるいは、学年やクラスとして抱える課題に対し、組織的な学校運営を行う。		
○ 教育活動を広く公開、発信していくことで、在校生保護者との信頼関係づくりに努める一方開かれた学校づくりを通して定員確保に向けた児童・園児募集活動を展開する。		
○ 学校をあげていじめの未然防止に努めいじめの早期発見と組織的な事案対処を行う。		
評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 組織運営	初期対応に重点を置き、教頭、学年主事、学年主任と連携を深め組織的な対応を行う。学年会、学年主任会を有効に活用し、必要に応じて柔軟に話し合いの機会を持つ。「報告・連絡・相談」を組織的に行う。	A
② 情報の発信 児童募集活動	「開かれた信頼される学校づくり」の実現のため、学級通信「きんちゃんしょうちゃん日記」等を通じて、家庭や入学希望者への情報発信をすると共に、定員確保に向けた児童・園児募集活動を展開する。	A
③ いじめ対策	いじめが起きにくい環境、いじめを許さない環境づくりに努め、事案に際し、迅速な組織対応を行う。必要に応じてアンケートや個人面談・保護者面談を実施する。	A

結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点

- ① 教職員の常日頃の意識が高く、おおむね組織対応はできている。学年会の実施が難しかった学年は、適宜時間調整をしながら連絡事項を共有、Slackやフリーボードなどの活用も進んでいる。課題として、専科教員と学級担任の連絡のあり方、学年主事の役割の明確化、学年主事間の情報共有、管理職の中での情報共有について、いくつか言及があった。教科担任制の中で、児童のトラブルや問題行動の情報共有は毎年課題にあがる。一部の児童への対応に苦慮する場面が増えており、ますます情報の共有が重視されると同時に適切な指導のあり方について考えていかなければならない。
- ② 学級通信にかわり、日々のロイロノートでの連絡でタイムリーに学校の様子を伝えているクラスが増えた。ただ、「情報不足」ととらえる保護者も一定数いる中、学校側からの大切な連絡を見ていない保護者も少なくない。ペーパーレス化を進める中で、保護者への啓発を含め、発信の仕方には工夫が必要なのかもしれない。教職員の力で、きんちゃんしょうちゃん日記での発信も継続できた。ウェルカムボードやデジタルサイネージ、YouTubeによる「きんちゃんしょうちゃんチャンネル」での情報発信も好評を得ている。説明会や各種イベントも多くの教員の協力を得ることができ、次年度も117人の入学を確保できた。教職員は、私学教員として広報活動には前向きに考えている。
- ③ いじめの訴えはまま見られるが、QUの活用や迅速な組織対応により、実際、大きな問題に発展はしていない。複数の教員で児童を見守ることのできる教科担任制のメリットでもある。ただ、一部の児童の発言や行動には粗暴さが目立つ。人権意識の低下。いじめの萌芽となり得る言動を目の前に、教職員が団結して、断固許さない、という姿勢を見せるべき。改善が見られない場合や指導が行き届きにくい場合に、まわりへの影響を考え説諭以外の方法による指導も必要ではないか。教員自身も、各々の言動を振り返る必要がある。

2. 学習指導・研修の重点

(1) 目 標

- 私立小学校の付加価値を高め、教育内容を充実させるために、今年度の研究テーマ『「令和の近小教育」の創造～子どもの意欲を高める手立てと評価～（前期）』に向けた授業改革・改善を進める。
- 教員の授業力を高め、自己研鑽に励むために、一人一人が当事者となるような研修の実施と外部研修への積極的な参加を進める。
- 業務を改善および子どもの学習環境をより良くしたり広げたりするために、学校DX化を進めたりオンラインやテクノロジーの活用を広げたりする。

評 価 項 目	取 り 組 む 内 容 （ 指 針 ）	達 成 状 況
① 研究テーマに向かった授業改革・改善	各学年・教科部会で、研究テーマに向かった実践を進める。学期ごとに実践記録を作成する。校内研修や教科部会で実践記録を共有し、研究を深化させる。	A
② 教員研修の自分事化	校内研修に積極的に関わる。校外やオンラインの研修にも積極的に参加し、より多くの実践を見聞きしたりスキルをアップさせたりする。伝達研修や報告書等で情報を共有する。教育研究部を中心に、有益な情報を学年内研修として共有する。	A

③ 業務や学習のDX化	業務や授業、学習環境を見直しデジタル化を進める。ペーパーレス化や子ども・家庭との情報伝達・連携をスムーズにする。	A
結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点		
<p>①・こだわって実践を進めるという姿勢が少なかった。・研究授業や実践記録は時間も労力も必要だが、自分の力が向上している。・授業を考える際に、前学年の実践記録を参考にしている。・評価やエビデンスについては、確立した方法が見つけられていない現状がある。・前年度の実践を改善したり、新たに自由進度学習などに取り組んだりすることができた。・教科部会で実践の検討が行われるのが考えを深めるいい機会になっている。</p> <p>②・よくなる部分は大人数の問題点が多いことを感じている。・他校の見学で大きな刺激を受けた。・情報を得ている反面、自分の中で消化しきれていない。・積極的に外部研修には参加できていない。・校外の研修に参加して多くの知見を得、それを活かすことができた。・自分が学んだことをどのように活かしていくかを思い描いて研修に参加する必要がある。・多くの教員が外へ出るようになり、情報を共有してもらえようになった。他校とのつながりも増やしていくべきである。・研修の案内がSlackに流れてきてありがたい。・外部講師を招いた研修がもっとあれば良い。・教員同士もっと誘い合って外へ学びに出られたらいい。・出やすい環境を作る必要がある。私学として「現状維持」では時代位取り残されてしまうことにつながることを学べた。</p> <p>③・ロイロノートを使ったペーパーレス化を進めている。・デジタルとアナログの適当な場面を考えていく必要がある。・Google Formを活用して小テストを行なった。・ペーパーレス化が進んでいるが家庭との連絡がスムーズになったとは言い難い部分もある。・「親子で使うiPad」は高学年で難しい現状がある。・保護者にも慣れていってもらい必要がある。・学習環境の面では、まだまだ机の並びを見ても一斉授業型が多いように感じられる。</p>		
<p>3. 生活指導・児童活動・保健衛生・環境整備の重点</p> <p>(1) 目 標</p> <p>○ 規範意識を育成し、高めていくため徹底した指導を行う。</p> <p>○ 子どもたち自らが諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。また異年齢交流を深め、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。</p> <p>○ 子どもたちの心身の健康を中心に、安心・安全を考慮した集会や活動を計画し、実施する。</p>		
評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 生活指導と安全	挨拶、身だしなみ、登下校マナーの徹底指導をしていく。特に、挨拶指導に重点を置き、教員自らが率先垂範を心がけて指導に取り組む。	B
② 児童活動	教育の通常化を目指し、学校行事や異年齢の交流活動（フロア活動、クラブ、委員会など）を計画し、工夫して実施する。	A

③ 保健衛生と 体育	怪我予防や熱中症、感染症（特に新型コロナウイルス感染症）等の予防や対策を実施していく。	A
---------------	---	---

結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点

- ① 生活指導と安全 全体的に児童の落ち着きがなく生活指導に関して強い危機感を持たれている内容が多かった。子どもの規範意識の低下についての課題を考えると様々なご意見があった。社会の変化、家庭の教育力の低下、教員の指導力の低下など、今後の取組として、教員間の生活指導に関する認識の差、温度差を是正しなければならないとのご意見も多かった。そのためには、教員が共通して指導していく基準・ルールを明確にすること認識を持つ機会を適宜設けること、また育てたい近小生の姿、児童像を大切にすることなどが急務であるとの意見が多かった。他の意見には、発達特性のある児童への指導や、合理的配慮に関する内容もいくつか見られた。担任だけの対応は、指導が行き届かないため、対応を考えなければならない。
- ・挨拶に関して：「以前に比べ進んで挨拶する児童は増えた印象」「正門での一礼や頭を下げる児童が増えた」といった意見の一方、まだまだ定着には至っていないとの意見もあった。率先・垂範を心がけていく必要がある。
  - ・登下校マナー：苦情が立て続けに入っていた。ホームでは落ち着いて過ごしている児童がいる中、車内で迷惑な行為をしている児童が目立った。下校の見廻り指導に関しても、教員が引き続き指導していくとともに、駅から学校までの登校指導を進んでやる必要があるとの意見があった。今後、児童はもちろん保護者への協力を含めた現状の報告を進めていく。
  - ・身だしなみに関して：高学年に帽子を被らない児童や靴のかかとを踏んでいる児童が非常に多いとの意見があった。
- ② 児童活動 学校・学年行事や縦割り活動の通常化が進み、活動を通して児童の成長を感じることができ、児童や保護者も喜んでいたとの意見がある一方、特に児童会や委員会の活動内容に関する見直しや改善があるとの声があった。児童が自ら学校をよくしていく意識が児童の中で広がることが全体をよくしていくことにつながるのではないかと意見もあった。充実させるための時間の確保や活発な取組に向けての進め方など再度検討し改善していく必要がある。
- ③ 保健衛生と体育 熱中症に関しては、運動会を分散実施したり、暑い時期の休み時間で放送を入れたりするなどの対策をした。感染症対策に関しても適宜対応できていたとの意見が多かった。怪我はやや増えていた点では、今後も啓発していく必要がある。

4. 進路指導・学習評価の重点
- (1) 目 標
- 附属中学校・高等学校の6年間で十分についていける学力を身につけさせる。
  - 個々の学力推移を的確に把握し、子どもひとりひとりの学力を伸ばしていけるようにする。
  - 各学年において具体的な実践を通して、キャリア教育を進めていく。

評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 進路指導 (基礎学力)	<p>昨年度取り入れた「内部推薦プレ判定」に加え、本年度より内部推薦の判定に「基礎学力を有する」基準を加えて運用していく。</p> <p>全学年において、基礎学力を身につけさせる取り組みを個に応じた講じていくとともに、学年に応じた学習習慣を身につけさせ、進路保障につなぐ。</p>	B
② 学習評価	<p>全学年において、学力推移表(進路指導部作成)や日々の学習記録をもとに子どもひとりひとりの学力を伸ばしていけるようにする。また、本年度より4年生以上で基礎学力検定を年間2回実施し、基礎学力の定着をより確かなものにしていく。(保護者への結果通知も実施)</p>	A
③ キャリア教育の充実	<p>低学年では、自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、さまざまな活動への興味・関心を高めながら、意欲と自信をもって活動できるようにする。</p> <p>中学年では、友だちのよさを認め、協力して活動する中で自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする。</p> <p>高学年では、苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取組、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする。</p>	B
結果と分析・次年度への改善点		
<p>① 内部推薦の判定の第一基準に、「基礎学力を有する」基準を加えて運用することができた。本年度、内部推薦者50人を決定した。これは、学年全体の人数の47%（前年+4%）にあたり、昨年より増加となった。また、学年全体における内部推薦認定率は約82%（昨年89%）で昨年より下回った。これは、日々の学習習慣が定着できていない児童が一定数（年々増加傾向）いることが原因であると推察する。また、全学年において、基礎学力定着のための課題に取り組ませているが、定着できてきた児童とそうではない児童もいて、難しい現状である。今後は、学習形態の工夫も視野に入れながら進めていく必要がある。</p> <p>② 個々の学習状況の把握に努め、必要に応じて補充学習等を取り入れた。特に、進路指導部から出される学力推移表をもとに、学力に課題のある児童に向けての指導を重点的に行うことができた。また、4～6年生対象に基礎学力検定を実施し、基礎学力の定着を確認するとともに、個々の教員の授業力の改善を意識した指導が展開されている。</p> <p>③ 低学年では、信貴山学舎・吉野学舎をはじめ、1年生は身の回りのことを意識してできるようになった。2年生は「動物園プロジェクト」や「郵便局プロジェクト」に子どもたちはいきいきと活動に参加することができた。中学年では、比叡山学舎・中京学習旅行をはじめ、3年生は耐寒生駒登山においてリーダーシップを発揮することができた。4年生は児童会（クラブや委員会など）活動にも参画し、学校を動かす原動力となった。高学年では、東京学習旅行・修学旅行・白浜臨海学舎・運動会・音楽会・耐寒生駒登山などクラスのなかまと協力し助けあいながら学校生活をおくることができるようになった。特に多くの6年生は将来の自分を考えながら中学校受験にのぞむことができた。また、その夢を掛け軸に毛筆で書いたり、卒業Movieに動画を残したりすることで、自信をもって中学へ進学できるように指導してきた。</p>		

## (2) 児童アンケートの考察

子どもたちの『振り返りシート』には、「耐寒登山では、みんなで励まし合って最後まであきらめずに登ることができた」「学舎・学習旅行が楽しかった」「いろいろなことを実際に見たことでよく分かった」「タブレットを使って振り返った。お家の方と一緒にまた行ってきた」といった肯定的な自己評価が多く、子どもたちが学校生活をそれぞれの受け止め方で満喫している姿が伝わってきた。

## (3) 保護者アンケートの考察

### ○ 学校の教育方針について

概ね、本校の教育方針にご賛同いただき、引き続き、叡智教育（知育）道徳教育（徳育）健康教育（体育）の調和のとれた教育活動を推進していく。来年度は、本年度以上に大学との連携を一層充実させ、近畿大学学園の附属小学校であることの強みを生かした教育を進めていく。本校教育の根幹にかかわる重要な行事と位置付けており、学舎・学習旅行については、4年ぶりにもとの体制に戻すことができた。

### ○ 教育活動について

#### ・ICT教育について

ICT教育への取組については、概ね好評価を頂きましたが、低学年からの導入は早すぎるのではないかと、板書をノートに丁寧に写すこと等をもっと大切に取り扱うべきだとの指摘、検討することに止まらず、具体策を示すべきだとの指摘も頂いた。今後の教育の動向を見据えながら、より効果的な運用・利活用の仕方について発信すべく探っていく必要がある。欠席等の際のリモートによる授業に関しても早急に取り入れるべきだとの指摘を頂いた。本校にとって、当然実際の授業を何よりも大切に取組をすすめているが、状況に鑑みて、リモートによる授業の配信を見据えて進めていく必要がある。

#### ・体力向上の取組について

子どもたちの体力については、個人差が顕著であるという実態が明らかになった。そのため、低学年から運動に親しむ取組や全校あげての『運動週間』を進めていく。

#### ・人権教育について

人権感覚が低く、人権教育の取組が不十分ではないかとの指摘を頂いた。今年度中に教員研修を実施し、教員自ら人権感覚を磨くとともに、人権教育の取組を保教会とも連携しつつ一層充実させていく必要がある。

#### ・行事について

本校が大切にしている『本物を通しての実学教育』に基づく様々な活動や体験について、「新型コロナが5類になっての学校生活は、行事も盛んで、保護者が参加できる行事も多く、とても有り難かったです」等、高評価を頂いた。引き続き、教育活動の一層の充実を図っていく。

・生活指導について

乗車マナーをはじめとした公共マナーの徹底に努めているところですが、乗客や地域住民の方からの苦情が後を絶たず、一段と厳しい苦情が寄せられているのが現状である。特に、行事の際の親子での乗車態度について非常に厳しい非難が寄せられている。近隣の駐車については、保護者のご理解のお陰で、随分改善してきている。但し、最寄り駅での駐車マナーについては苦情が絶えない。

決められた約束を守り、規律正しい生活習慣の確立と法令を遵守して毅然と指導すべきとの厳しいご意見も昨年同様、頂戴した。本校としては、学校の秩序を乱し、児童としての本分に反したと判断した場合には、別室登校、出席停止といった措置をとらざるを得ません。尚、それでも改善が見られない場合には、退学（転出）勸奨といった措置をとらざるを得ないと考え、毅然と臨んでいく所存である。

・安全指導について

安全上の観点により、子ども向け携帯電話の使用を推奨する。

○ ケータリング給食について

「回数を増やして欲しい」「現状のままでよい」、「より美味しいケータリング給食になるようにして欲しい」等々数多くのご意見を頂いた。『ケータリング給食』についての授業を今後とも実施する等、食育指導とも関連させた指導を進めてく。併せて、残食が多いという現状を踏まえ、業者との連携・調整をさらに図り、より充実したケータリング給食を目指して、改善に努めていく必要がある。

○ 進路・進学指導について

進路・進学についての情報開示を一層進めるとともに、進路説明会の充実に努めていく。基礎学力の定着に向けた取組を引き続き進めるとともに充実を図っていく。

○ 学級や授業について

この他にも、1年間を振り返り、お子様の成長を喜んでおられるご意見や、学級担任や専科担任への労いの温かいお言葉も多数いただいたが、一方、厳しいご意見も頂いた。